

書評 02

一般社団法人 日本協同組合連携機構 監修

『1 時間でよくわかる SDGs と協同組合』

家の光協会 / 2019 年 11 月刊 / 80 ページ / 660 円 + 税
ISBN 978-4-2595-2198-1

評者：酒向 美也子
京都生活協同組合



「本書は、SDGs を協同組合に引き寄せて読み解いた、国内初の入門書です。また、何章からでもお読みいただけるように構成しています。」この一文が本書 2 ページからの「はじめに」に記載されています。

つまり本書は SDGs の入門書ですが、協同組合という組織の理念、あり様を通して SDGs を読み解こうとしているので、特に協同組合の関係者にとって親しみを感じる入門書になっていると思います。また、「章単位」でまとまっているので、「どの章から読んでもいいですよ」としているところも特徴と言えます。さらに、「SD じい (仙人)」「クミちゃん (5 歳の女の子)」「Ai (アイ：未来ロボット)」などのキャラクターが親しみやすいタッチのイラストで登場し、各章を案内してくれます。SDGs についての説明が視覚的でわかりやすく、クイズやセルフチェックコーナーもあって、終わりまで楽しみながら読みすすめられる工夫がされている点も優秀だと感じました。

全体は四章で構成されています。「第 1 章 SDGs ってそもそもなに?」「第 2 章 協同組合は SDGs 達成のために何ができる?」「第 3 章 自分たちの SDGs 宣言をつくろう」「第 4 章 協同組合は SDGs をどう実践している?」など、SDGs の基本から始まって実践までがコンパクトにまとめられているので、タイトルにあるとおり 1 時間以内で読むことができました。

例えば「SDGs のことをざっくり知りたいが、今は 30 分しか時間がない!」という時などは、とりあえず「第 1 章 SDGs ってそもそもなに?」だけ読めば、SDGs の読み方 (エスディー・ジーズと読む) から始まって、誕生の経過、17 の目標、169 個のターゲットなど、それぞれが持つ意味などについて、SDGs の大枠が理解できます。

「SDGs は何となくわかったけれど、具体的にはどうやって取り組んでいけばいいんだろう?」という時には、「第 3 章 自分たちの SDGs 宣言をつくろう」が役立ちます。この章では、SDGs 度のセルフチェックやワークショップの開催などがわかりやすく掲載されているので、「個人や家族でできること」「仲間やグループでできること」が具体的に組み立てられています。また、3 章の最後のページには、「SDGs を経営に組み入れるためにチャレンジしたいこと」と題して、企業や団体で SDGs を経営に取りこんでいくことも案内されています。SDGs の取り組みに向けて、最初の一步を踏み出すことを後押ししてくれるのが第 3 章です。

しかし、冒頭でお伝えしたように、「SDGs を協同組合に引き寄せて」という点が本書の特徴の 1 つです。その点では「第 2 章 協同組合は SDGs 達成のために何ができる?」「第 4 章 協同組合は SDGs をどう実践している?」も、

ぜひじっくり読んでいただきたいと思います。個人的に特にすすめたいのが「第2章 協同組合はSDGs達成のために何ができる?」です。

この章では、まずSDGsと協同組合の親和性が述べられています。「一人は万人のために、万人は一人のために」という協同組合の理念と、「誰一人取り残さない」というSDGsが掲げる理念は、見るからに似ており、重なりあっていることが感じられます。また、世界の協同組合のルールである「協同組合原則」を見ると、「第6原則 協同組合間協同」「第7原則 コミュニティへの関与(地域社会への配慮)」では、パートナーシップ、地域社会の持続可能な発展を重要視するSDGsの基本的な考え方がすでに盛り込まれていることがわかります。

「協同」とは、「複数の個人や団体が心や力をあわせて同じ目的、共通の利益を守るために事にあたること(大辞林第三版)」です。協同組合は、同じ目的、共通の利益のために、個人や様々な団体が心と力をあわせ、地域社会に配慮しながら、平和で持続可能な地域社会の実現をめざす組織と言えます。第2章を読むと、協同組合はこれまでも、SDGsが課題とするテーマの解決に向け、取り組みを継続してきたことが実感できます。あらためて「協同組合っていいね」と言いたくなるのが第2章です。

第4章では、協同組合のSDGs実践事例が紹介されています。個人や様々な団体が心と力をあわせ、地域社会に配慮しながら、平和で持続可能な社会・世界の実現に向けてどのような実践が行われているのかを垣間見ることができます。

掲載されている8つの事例は、どれも素晴らしい取り組みなのですが、ここでは「助け合い」の事例として紹介されている生活協同組合しまねの「おたがいさま」の取り組みに触れたいと思います。「おたがいさま」は、くらしの中で直面する「困った」「手助けがほしい」「こんな

ことができたなら……」などの声に対し、「応援したい」「助けてあげたい」と考える人をつなぎ、互いに支え合う有償の助け合いシステムです。生協しまねの「おたがいさま」では、困っている人の思いに共感し、それに応える人を「つなぐ」ことを大切にしながら、組合員以外にも利用を開放して、医療生協、JA、社会福祉協議会などとの連携を広げてられました。組合員だけでなく、誰でも利用できる支え合いのしくみを構築し、困りごとの解決をすすめていこうという活動は、「誰1人取り残さない」ことを掲げるSDGsの実践事例として、とても腑に落ちます。そして、このような活動に関わって、人と人を「つなぐ」ことを大切に取り組まれている方たちは、協同組合という組織の有り様に深く共感されているのだらうなと感じました。

私たちを取り巻く環境を振り返ると、近年は国内外で異常気象による自然災害、ゲリラ豪雨等が頻発し、気候変動は深刻さを増して猛スピードで進行していることを実感します。また、地球環境だけでなく、経済格差の広がり、不満や不安の増大なども肌身で感じる場所です。SDGsが短期間に広がりを見せた背景には、このような状況から、「地球はもう後がないのではないか」「このままではビジネスにも深刻な影響が出てくるのではないか」という危惧を強めた人たちや、事業者が増えたことがあると思っています。

SDGsは自分ごととしてとらえることが最初の一步であり、そこから目標達成に向けた行動を起こす人が増えていくことが大切だと思いますが、本書はその最初の一步を踏み出すきっかけづくりに役立つ1冊だと感じました。そして、SDGsがめざす世界の実現に向けて取り組んでいる協同組合に参加する人が増え、世界中に協同組合が大きく広がること自体が、SDGsへの貢献につながると確信できる1冊でもあります。